

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570801187		
法人名	有限会社 岩国メディカルサポート		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5－1号		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町受理日	平成28年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。(考え方)「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試験又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか?「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)」と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。(接し方)まずは、その人の「性格・習慣・生活層・趣味」を良く知る。「お客様」扱いにはせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情(喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてもちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話もしますし、大笑いもします。人間ですから、笑いだけで和やかに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。(体制)管理者2名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者2名(介護従事者も兼務)、介護従事者21名(内2名は兼務)・非常勤8名)、看護職員2名(介護従事者と兼務1名、提携病院より派遣1名)職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。当施設の他部署の専門職員(看護師・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。(交流)・ご家族の方々と、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。・地域の方々とは、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(現在は職員のみ参加。今後入居者の方々も参加検討中)への参加。当施設の行事(夏祭り等)への参加呼び掛けも行なっています。・毎月様々なボランティアの方々(お話し会・音楽療法・傾聴・作業療法等)により、楽しまれています。(特徴)・食にこだわり、国産の物を提供しています。このたび「地産地消モデル施設」としての認定をいただきました。・社長(医師)宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。・本人、ご家族が“ 看取り ”をご希望されれば、“ 看取り ”も行ないます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、朝礼時に利用者一人ひとりの体調や状況について話し合わせ、本人の思いを大切にされて、「今食べたいものは何か」「今楽しいことは何か」などを見つけて、利用者一人ひとりにあったその人のペースで過ごせるように支援されているなど、理念にある「人がいて自分がある」ということを、全職員で意識づけられて、利用者を尊重して日々楽しく過ごせるように取り組んでおられます。協力医療機関の定期的な訪問診療や休日や夜間を含めた緊急時の対応などの支援がある他、看取りに対する支援や看護職による健康管理など、適切な医療が受けられる支援が家族の安心につながっています。食事は利用者の好みをとり入れた献立で、地産地消の旬の野菜や新鮮な魚などの食材を使用されて、三食とも事業所で調理されています。ソーメン流しやm餃子パーティー、バラエティにとんだおやつづくり、月1回の外食など、利用者が食事を楽しむことができる支援をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人がいて自分がある その人のために出来ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重している。	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念を事業所内に掲示し、運営者、事務長、管理者、職員は申し送り時や朝礼で理念を唱和し、共有を図っている。管理者は、理念の中の「人がいて自分がある」ということから、利用者に対して敬意を持って接するよう職員に意識づけをして、理念の共有をし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者様から、買い物や、散歩等の要望があった際は、職員が付き添い、要望に応えるよう努めている。また、自治会でのお祭りや溝掃除など、地域行事にも、積極的に参加しており、春には自治会の御厚意により特別に当グループホームの敷地内に山車を入れて頂き、大変皆様に好評である。毎年行う夏祭りも地域の方が大勢来られにぎわっている。	自治会に加入し、職員は自治会の会合に出席したり、地域の清掃活動に参加している。自治会からの要請により、介護や福祉サービスの相談窓口にもなっており、地域の一人暮らしの見守り訪問活動も行っている。地域住民からは、花や野菜の差し入れもある。利用者は地域の天神祭に参加している。同敷地内の法人の施設と合同の夏祭りには、多くの地域住民の参加があり、利用者や家族を交えて交流している。保育園児や幼稚園児、米軍基地内の中学、高校生、地元の中学生の職場体験の受け入れをしている他、ボランティア(慶弔、読み聞かせ、裂き織、ジャズバンド演奏、琴、唄など)を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一回Drによる医療や認知症に纏わる講演会が院内であり、地域の人々が参加している。また、職員も参加しており、良い勉強となっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいる。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指している。	月1回のグループホーム会議や朝の申し送り時に話し合い、自己評価を全職員で取り組んでいる。評価結果から、地域との連携強化、運営推進会議の活性化、火災、津波対策の強化、個別サービスの支援の強化などを目標達成計画に立て、できるところから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、警察、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともあり、速やかに実現している。事故報告、ヒヤリハットも報告して介護現場でどのようなことが起こっているのか細かく報告している。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事の予定や報告、ヒヤリハット・事故報告、ボランティアの紹介、防災訓練の状況報告、外部評価への取り組み状況等について説明し、意見交換している。利用者の暮らしぶりをDVDで紹介したり、派出所より振り込め詐欺や独居老人の徘徊などの意見があり、地域の見守りや支援などサービスの向上に活かしている。	・メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただき、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。また、地域包括支援センターの職員とも密に連絡を取り、ご利用者様の生活の安全に取り組んでいる。	市の担当課の職員とは、事務長や管理者を中心に、直接出向いたり、電話で情報交換を行ったり、相談して助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例相談や情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会を開いており、職員全員理解している。出入口は鍵をかけず自由に生活していただけるようにしている。また、全館セキュリティーシステムで無人部分の適切な見守りを行っている。	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束について勉強会で学び、職員は正しく理解しており抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについては、気になる場合には管理者が職員を指導している。玄関は施錠していない。外出したい人があれば職員が一緒に外出している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを作成し、グループホーム会議などで、虐待についての知識を深めている。また、虐待を発見した際はマニュアルに従い適切に対応できるよう徹底している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明している。解約時にも理解、納得を図るよう心がけている。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置し、意見箱の設置もしている。また、運営推進会議等での家族様の意見を反映させて改善に向けている。	契約時に家族に苦情の受付体制や処理手続きについて周知している。玄関に意見箱を設置している。電話や面会時、行事参加時、運営推進会議時等で家族から意見や要望を聞いている。日常の生活の様子をDVDで見たいとの意見があり、DVDを配布しているなど意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼会議または申し送りにて意見交換を行い、GH会議で質疑応答を行い、援助に活かしていく。	事務長や管理者は、グループホーム会議や朝礼時などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。外出したい利用者への対処方法についての提案など、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の努力・実績を評価し、少ない介護給付費の中から、最大限職員には給与で還元している。また、資格取得による昇給、頑張る者への褒章と昇給、毎年の昇給等処遇において適切な評価に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の参加を促し、職員の知識、技術の向上に努めている。また内部研修での勉強会も定期的に行っている。	外部研修は職員に情報を伝え、経験や段階に応じて受講の機会を提供している。受講後はグループホーム会議で復命し、全職員で共有している。内部研修は、グループホーム会議でプライバシーの保護や身体拘束、虐待、認知症について学んでいる。運営者(医師)が医院で開催する講演会に参加し、知識を身につけている。資格取得のための研修費の助成や勤務体制の配慮など、働きながら知識や技術を学べるように支援している。	・計画的な研修の検討

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟しており、案内があった場合には、積極的に研修に参加しており、その場において、現場での問題点を改善するため、話し合いをして現場改善に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族のみで見学・申し込みされた際は、後日ご本人様が現在生活している場に行き、現在抱えている悩みや、今後のどのような生活を望んでいるのか、ご本人様の気持ちを理解・把握するよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みをされた際は、ご家族の抱えている不安、要望を詳しく聞き、ご家族から見たご本人の今おかれている状態を把握し、今後について、ご家族と同じ目線で話をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一概にグループホームという方向性のみではなく、他のサービスを含めて総合的に考え、ご提案している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス利用前に、お食事を当グループホームで食べていただき、他者との交流を図る機会を設けている。職員は他者との対話の仲立ちの手伝いをしながら馴染んでいただけるよう努力している。過去の生活歴に合わせて、馴染めるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、各ご入居者様の様子を報告したり、ご家族と世間話をしたりと、家族の方と良好な関係が築けていると思う。また、家族の方の悩みや思いについても、聞かせていただき、ご家族と同じ立場に立って一緒に解決策を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係や思い出を維持するために、ご入居者様・ご家族の意見を取り入れ外出・外泊の実施をしている。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、お弟子さん等の来訪がある他、年賀状や暑中見舞の支援、家族の協力を得て結婚式や法事への出席、墓参り、お寺参り、外出、外泊など馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・体操・掃除・洗濯の手伝い等共に過ごす機会作りを多く設けてる。また全介助で発語がない方でもレクリエーションの輪の中に入って頂き、楽しい環境づくりに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に面会に来ていただき、ご入居者様・職員と以前と変わらない関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との日々の関わりの中からご入居者様の気持ちや、思いを把握するよう努めており、居室担当の職員が中心となり、アセスメントをとった上で、ケアプランに活かしている。	入居時にヒヤリングシートや在宅ケアアセスメントヒ表に、家族から利用者の基本情報や生活歴を聞き取り、記録しているものを活用したり、日々の関わりの中での利用者の行動や会話をケース記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、介護記録用紙に記録している。申し送りで担当職員が他の職員に伝達している。また、公休の職員は出勤した際は、介護記録用紙に目を通し、全職員が把握できるよう、徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様とのコミュニケーションを図り、要望を聞いた上でご家族に相談するように務め、ご入居者様の気持ちや、要望を最大限活かせるよう、作成しています。	本人の思いや家族の意向、主治医、音楽療法士、関係者の意見を参考にして毎月1回のグループホーム会議で計画作成担当者、利用者を担当する職員を中心にケアカンファレンスを開催して、話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をケアプランに沿って個別に介護記録用紙に記録しており、記録を基にケアプランの見直しを行なっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週最低1回以上の医師による往診、また細かな変化にも日々医師と相談しながら最適な治療が受けられるよう支援している。また、歯科医等往診もあり、調子が悪く受診へ行くことが困難な場合でも対応している。	利用者、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療を受けている。他科受診時は家族の協力を得て職員が受診の支援をしている。歯科は、毎週1回の訪問診療を依頼している。緊急時や夜間には、協力医療機関の指示を仰いで対応し、看護師と連携を図るなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換をしながら、受診や治療計画をたて、日常生活を自分らしく送れるように支援している。また医師より毎月一回利用者様個人個人の医療情報を作成して頂き活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設の地域医療連携室とコミュニケーションをとり、情報交換をする。直接、医師・看護師と話し、利用者の意思を尊重するように努めている。また医師より毎月一回利用者様個人個人の医療情報を作成して頂き活用している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週1回の看護師によるご入居者様の状態の確認と、週最低1回以上(状態に応じて適宜往診があります。)の医師による往診により、重度や終末期の方より良い暮らしのために職員と連携し支援している。また最近では、ほぼ毎日看護師が出勤しており、常時医師と連絡が取れるようにしている。また、入居していただく際に、重度化した場合や終末期のあり方について、家族に事前に承諾書やアンケートをとり十分に説明している。	契約時に「重度化や終末期の対応し市」に基づき事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合には、家族の意向を聞いて、かかりつけ医と相談し、その結果に応じた方針を全員で共有し、支援に努めている。看取りに対する支援もあり、看取りマニュアルや連絡方法のアンケートにそって、主治医や看護師の指示により対応している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止についての、マニュアルを作成し、事故防止策をについての会議を開き、徹底している。また、事故、ヒヤリはつがあった際には、書類を作成し、朝礼会議にて予防策を検討し、対策を練っている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、申し送り時やグループホーム会議で話し合い、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、年1回のAED講習や看護師による意識障害への対応の勉強会を開催している。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方に参加を呼びかけ、避難訓練を毎年定期的に行なっている。また、夜間想定訓練、緊急の火災はバルコニーへ避難するなどさまざまな状況を考慮して訓練している。津波の際もどこに避難するのか職員が避難経路を確認して訓練を行っている。	年2回、同敷地内の法人全体としての防災訓練に参加し、昼夜間想定火災時避難訓練や避難経路の確認、通報訓練などを実施している。訓練時には、運営推進会議のメンバーの参加を得て、利用者と一緒に実施している。備蓄の確保しており、1年ごとに更新している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関しての勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っている。家族のような馴染みの関係を築きつつも、このような言葉かけは細心の注意をして対応している。	職員は、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について内部研修で学び、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、一人ひとりの生活パターンを大切にし、希望に添って支援している。例えば『今は食事が食べたくない』と言われた方には強制することなく食べたい時間に食べて頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回程度出張美容室(トラックが美容室になっている)に来ていただいている。夏祭りのときには希望者は浴衣を着、化粧をしたり、外出の際のおしゃれ等支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなご入所者様も多く、食事の準備を手伝ってくれる方が多い。食事時の雰囲気も良く、好き嫌いにも対応し、体調が優れないとき等希望があればお粥など、臨機応変に対応している。また、ご入居者様、職員と一緒に準備、食事、片付けをして、さらに、コミュニケーションを円滑に図り、楽しみを増やすよう支援している。そして、常食の方はもちろんの事、ミキサーの方にも『目で食べる』という心を大切にして見た目も1品1品大事にしている。	利用者の好みを採り入れた献立で、地産地消の旬の食材を使って三食とも事業所で調理している。利用者は、下ごしらえや調理、盛り付け、お茶くみ、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで一緒に食事をしている。季節に応じた行事食(ソーメン流し、餃子パーティ)やおやつづくり(白玉団子、おはぎ、クッキー、ピザ、ホットケーキ、どら焼きなど)、味噌や梅干などの保存食づくりや月1回(誕生日)外食に出かけるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えている。また、状況に応じて水分量が職員全員に把握できるよう、水分摂チェック表を作成している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせ自立支援を促す声かけをしている。口腔ケア、義歯の清掃、消毒についてはケアプラン生活チェック表にチェックしている。また月1回歯科衛生士の方が来られ、口腔内のチェックと職員への指導を行い、指摘があれば歯科受診に繋げている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心を傷つけることなく、定期的にさりげない声かけやトイレ誘導をしている。トイレにはウォシュレット・手すりがついており、車椅子用トイレには背もたれ、足置きを備えている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防関しての会議を開き、個別にマニュアルを作成しており、日々の排泄状況を、朝礼や申し送りにて報告している。また、便秘対策としては、散歩、入浴、水分・食物繊維の摂取、体操、レクリエーションなど積極的に行なっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂は毎日入ることができ、時間も希望に添ってその都度対応しています。また、入浴を拒否されるご入居者様には、できるだけ入浴していただけるよう声かけを工夫している。	入浴は毎日可能で、14時から17時ごろまでの間に、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、足浴などへの対応やみかん湯やゆず湯、入浴剤を使った入浴を楽しむ工夫もある。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、職員を交替したり、声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後や、食後はゆっくりするよう声かけ、疲れを溜めないよう休息を促している。また、利用者一人ひとりの生活習慣を把握して、休息の声掛けをしている(昼寝のタイミング等)。そして、安眠を促す支援として冬場には湯たんぽを使用していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当グループホームでは、毎週1回薬剤師が直接薬を持って来所し、説明(目的、用法、用量、副作用)付きの処方箋を基に説明を受けている。その処方箋には薬の写真も記載されており、大変わかりやすいものとなっている。また、週1回医師、看護師が来所し、状態の変化などを伝え、職員に適切なアドバイスをしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態によって役割を作り、めりはりのある毎日が送れるよう支援している。また、それぞれの方の要望に添えられるよう、外出レクを多く取り入れ気分転換等の支援している。	ちぎり絵、はり絵、折り紙、さき織り、雑巾縫い、新聞紙でごみ入れづくり、メモ祇づくり、ランチョマットづくり、カレンダーづくり、味噌や梅干づくり、風船バレー、生け花、脳トレ(漢字、計算、パズルなど)、ラジオ体操(転倒防止、手足の運動)、歌を歌う、音楽療法、保育園児と芋の植え付け、芋掘り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として行くこともあるが、ご入居者様のその日の希望により、散歩、ドライブ、買い物、外食等支援している。	日々の散歩や買い物、季節の花見(桜、バラ、菖蒲、紫陽花、紅葉等)、ドライブ(潮風公園、錦帯橋、運動公園、蜂ヶ峰、道の駅等)、初詣、外食など、戸外に出かけられるように支援している。受診の帰りに外食をしてくるなど、利用者のその日の状態や希望によっては、個別又は少人数の外出も行っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは公衆電話を設置しており、使用される際には、お金が必要な為小銭を所有している方が多い。また、買い物などに行く際は、お会計はなるべくご入居者様が行えるよう援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設に公衆電話を設置しており、自由に電話を掛けることができる。また季節ごとの手紙(年賀状、暑中見舞い)などもご利用者様に書いてもらうよう、支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様とのカレンダー作りで季節感をだしている。ホールの横には台所があり、まな板の音や料理の匂いで五感を刺激している。そうすることでコミュニケーションの活性化にもつながる。また馴染みの食器を使用しているご入居者様もおり、楽しく食事をする工夫もしている。花を飾り季節感を出すよう努めている。	共用の空間は明るく、広々としていて、ソファに座って利用者同士が雑談をしたり、DVD観賞をしている。畳のコーナーがあり、利用者が横になったり、腰をおろしてくつろげるようになっている。季節の花を生けたり、壁面に季節に合わせた利用者の作品を飾っており、季節感を採り入れている。台所からは調理の音や匂いがして、生活感もある。加湿器の設置など、温度、湿度、換気、明るさ、音などの生活環境に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV、テーブル、ソファがホールにあり、利用者がTVを観たり、本を読んだり、談笑したりと気のあったご入居者同士で思い思いに過ごしている。また、玄関ホールやホール内の小上がりにソファやコタツが設置されており、独りになれる落ち着いた居場所づくりを工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が居心地よく過ごして頂くために、本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを使用している。例としては、ダンス、化粧台などがある。	テレビやダンス、机、椅子、ハンガーラック、鏡台、化粧品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁には誕生日の写真や家族の写真を飾って、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいる。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム かえで

作成日：平成 28年 5月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	事業所自体が地域と密接に関わる。	地域との連携を今後も密接に図る。	地域と関わる行事(天神祭、溝掃除、夏祭りなど)には積極的に参加して、今後も密接にコミュニケーションを図り、地域の一員として日常的に交流するように努める。	6ヶ月
2	5	運営推進会議ではご家族様、地域の方のご理解、協力を得ていく。	ご家族様、地域の方に運営推進会議等での報告を詳しくしていく。	今後も運営推進会議で、行事報告や事故報告、近況報告などをご家族様、地域の方によりわかりやすく説明していくよう心掛けていく、	2ヶ月
3	36	2階にぐるーぷほーむがあるので、移動時間がかかる。	火災、津波対策を職員間で共有し徹底する。	今後ともご利用者様との避難訓練だけでなく、職員のみでの対策会議、夜間を想定した避難訓練、通報訓練、津波を想定した避難場所の確認などを実施していく。	6ヶ月
4		いままで以上に個別でのサービスが提供できる。	入居者一人ひとりに合ったサービスを提供する。	入居者の方々も年々重度化しているため、今まで以上に職員間で密に話し合い、その方に合ったサービスを提供していく。	2ヶ月
5	14	職員一人ひとりの知識と技術の向上。	より積極的に研修に参加しスキルアップを図る。	外部研修に積極的に参加し、学んだものを現場で活かす。また、内部研修にも力を入れ、職員全員のレベルを上げる。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。